

平成30年度 事業報告書

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

学校法人 中国学園

大学・短期大学を取り巻く情勢及び本学が目指す方向性

「人生100年時代」に突入しようとしている今、大学も抜本的な見直しが求められており、これまでの自分の生き方と時代的潮流を総括するとともに、「学びを生きる」、すべての人が「人生100年時代」を見通した、自分自身の人生変革(ライフシフト)による新たな「ライフデザイン」の確立を目指した、全世代に開かれた大学が求められている。知識や技術の全てを個人や一つの組織で生み出すことが困難な時代になっており、新たな知識や価値の創出に多様な専門性を持つ人材が結集し、チームとして活動することの重要性がますます高まってきている。

第4次産業革命が進み、既存の産業・社会構造が大きく変化し、働くことの意義・内容・方法が多様化する中であって、古来から日本人が大切に守り受け継いできた自然・人間の共生を重視した「伝統」と適度な競争・成長路線との融合による、新たなリテラシーが求められている。

本学は、教育理念として、「あたたかい心」「ひらめく英知」「たえぬく努力」を掲げているが、今後の社会の変化に対応する基礎力を育て、社会に充分寄与できる人材の育成に一層努める。本学の建学精神として、教育理念である「心・英知・努力」を統合化するものとして、「全人育成」を掲げている。学生の精神的・道徳的・文化的・心理的・身体的発達を促進し、成人として社会生活に必要な資質・態度を備えたバランスのとれた人材を育成する。

今年度完成年度を迎える国際教養学部にあっては、どのような人材をどこに輩出できるかの真価が問われる年となっている。「地域発グローバル(ローバル)人材」の育成を目指し、地域・日本の歴史や文化に関する認識を深め、自分の考えを持った上で、世界中の異なる考え方を受け容れて共感し、新たな価値を創造できる人材の育成を目指す。その中核として「プレゼンテーション力」を掲げ、自分の地域・国の誇りをもって国際舞台でも活躍できることを重視する。

学生の満足度を高めるため、教員の自主的な授業改善の取り組みを基本として、大学・短大全体の教育の質的改善への努力によって、「三つのポリシー」(入学者受け入れの方針・カリキュラムの方針・卒業認定の方針)に基づく内部質保証を進める。学生の「能動的学修」を重視し、「学生主体の大学」の進化として「学生生活向上委員会」を活性化し、学生の自主的な活動を重視し、学びの知を深める喜びとしての「“楽習”力」を培うことを重視する。

地域連携においては、地域に輝き、地域創生を地域と共に目指す大学として、新たに地域連携機能と学生支援機能を統合した「エクステンション・センター」を活性化することによって、全学あげて地域とのつながりを深めるよう、一層努力をする。

従来からの「就職に強い中国学園」などに加えて、女子バレーなど「スポーツにも強い中国学園」を目指し、名実共に「県下一輝く大学」を目指す。また、学科の発展的改組を含む魅力ある学園づくりをどのように展開していくか、特に学生充足率の低い学科について抜本的な検討を進め、改革案を早急に取りまとめて具体的に改革を進める。各学部・学科における特色づくりとその広報活動が以前にも増して強く推進しなければならない。近隣の同種の学科とどこがどのように違い、どのような学生をどのように教育し付加価値を付けて世に送り出すかを明確にした入試広報活動を、入試広報部と各学科が協働して進める。

こうした状況を踏まえ、今後取り組むべき重要課題として次の5点を挙げることができる。

- (1) 学部・学科の改組・改編による教育・研究の仕組みの改革
- (2) 教職員自身の意識改革と教育・研究の力量の向上を目指す方策
- (3) 入り口(入学者の確保)・内部(カリキュラム・教育の質)・出口(就職や進学)の有機的連関に基づく「学士力」の保証方策
- (4) 中国学園大学と中国短期大学の社会における知名度と名声を向上させる方策
- (5) 収支の均衡と財政の健全化

これらの課題は、相互に関連し合うものである。どの課題についても、今まで改善を図ってきているが、さらに学内での論議を進め、より実効の上がる具体的手段を講じなければならない。

このため平成30年度は次の事項に重点を置いて運営していく。

2. 沿革

- 1953（昭和28）年 学校法人平田洋裁学園設立認可、平田洋裁学園設置（岡山市船頭町12番地）
- 1962（昭和37）年 学校法人平田洋裁学園を学校法人平田学園に改称
中国女子短期大学設置（岡山市船頭町12番地）家政科設置
- 1963（昭和38）年 家政科第二部増設
- 1964（昭和39）年 保育科増設
- 1965（昭和40）年 中国女子短期大学を都窪郡吉備町（現岡山市）庭瀬83番地に移転
中国女子短期大学を中国短期大学に改称
英文科 音楽科 増設
- 1966（昭和41）年 平田洋裁学園を平田デザインスクールに改称
- 1968（昭和43）年 専攻科 音楽専攻設置
- 1977（昭和52）年 平田デザインスクールを学校法人平田学園から分離
学校法人事務所を岡山市庭瀬83番地に移転
- 1988（昭和63）年 幼児教育専攻科 英語英文専攻科 増設
- 1989（平成元）年 学校法人平田学園を学校法人中国短期大学に改称
- 1990（平成02）年 家政科廃止認可
- 1992（平成04）年 経営情報学科増設
- 1995（平成07）年 専攻科音楽専攻 学位授与機構認定
- 1999（平成11）年 人間栄養学科設置
- 2001（平成13）年 学校法人中国短期大学を学校法人中国学園に改称
- 2002（平成14）年 中国学園大学開学 現代生活学部人間栄養学科
- 2003（平成15）年 中国短期大学人間栄養学科 募集停止に伴い学科廃止
専攻科英語コミュニケーション専攻 募集停止に伴い廃止
- 2006（平成18）年 中国学園大学大学院開設 現代生活学研究科人間栄養学専攻
子ども学部子ども学科開設
- 2008（平成20）年 専攻科 幼児教育専攻 廃止
- 2010（平成22）年 音楽科募集停止届出
中国短期大学平成21年度第三者評価、適格と認められる（短期大学基準協会）
- 2011（平成23）年 中国学園大学大学院開設 子ども学研究科子ども学専攻
中国学園大学平成22年度第三者評価、適格と認められる（日本高等教育評価機構）
- 2012（平成24）年 音楽科廃止
- 2013（平成25）年 専攻科音楽専攻廃止
- 2015（平成27）年 国際教養学部国際教養学科開設
中国短期大学平成27年度第三者評価、適格と認められる（短期大学基準協会）
英語コミュニケーション学科廃止
- 2016（平成28）年 中国学園大学平成28年度第三者評価、適格と認められる（日本高等教育評価機構）

3. 設置学校等

学校法人中国学園 理事長 中 島 博
中国学園大学 所在地：岡山市北区庭瀬 83 番地 学 長：松 畑 熙 一 (H30.6.18 まで) 千 葉 喬 三 (H30.6.19 から)
中国短期大学 所在地：岡山市北区庭瀬 83 番地 学 長：松 畑 熙 一 (H30.6.18 まで) 千 葉 喬 三 (H30.6.19 から)

4. 役員及び教職員に関する情報

					大 学	短期大学	合 計
役 員	理 事	8 名	教 員	常 勤	58 名	28 名	86 名
	評議員	24 名		非常勤	36 名	25 名	61 名
	監 事	2 名	職 員	常 勤	41 名		41 名

5. 事業の概要

(1) 当該年度の主な事業の概要

I. 学部・学科の重点的取組

◎中国学園大学

【現代生活学部人間栄養学科】

1 管理栄養士合格者の増加を目指した。

専門演習、総合演習、管理栄養士専門演習のなかで、国家試験対策を行い、また、国家試験対策講座を実施して管理栄養士国家試験合格者の増加を目指した。

- ① 管理栄養士演習 I、II において、3 年次生を対象に国家試験出題基準の基礎的内容について復習授業を実施した。
- ② 管理栄養士専門演習 I、II において、4 年次生を対象に国家試験出題基準の基本的内容の復習及び実践的問題演習を実施し、理解度及び実践応用力の向上を図った。
- ③ 総合演習において、栄養学に対する知識と理解を深めるとともに、模擬試験を定期的実施し、学修到達度を測り、学生の向上心を刺激し高めた。
- ④ 国家試験対策として、外部講師による対策授業も実施した。
- ⑤ 平成 31 年 3 月 3 日に実施された管理栄養士国家試験において、62 名の合格者を得た。受験者は 67 名、合格率は 92.5%であった。

2 管理栄養士や栄養士に対する職業意識を高めた。

ファーストイヤーセミナー、栄養セミナーにより、栄養学の理解を深めると共に、栄養学を実践する管理栄養士や栄養士に対する職業意識を高めた。

- ① ファートイヤーセミナーにおいて、管理栄養士としてさまざまな分野で活躍している卒業生を招聘し、講話を通じて管理栄養士の業務内容についての理解を深めた。
- ② 栄養セミナーⅠにおいて、管理栄養士や栄養士の業務について、グループによる調べ学修を実施した。発表会を開催し、調べた結果をまとめて発表することにより管理栄養士や栄養士の職業に対する理解を深めた。
- ③ 栄養セミナーⅡA、ⅡBにおいて、管理栄養士として活躍している卒業生を招聘し、学生からの質問に対応を求めた。学生の職業意識を高め、現場業務への理解を深めた。

3 家庭と連携した学習支援の強化

学生、保護者が大学での学修や生活について理解を深めることを目指し、あわせて就職の支援を図った。

- ① 2年次生を対象に、学生、保護者及び担任による三者面談を実施した。
- ② 3年次生を対象に、学生及び保護者に対し臨地実習、就職活動、卒業要件、国家試験に関する説明会（平成30年9月1日）を実施した。臨地実習、就職活動、卒業要件、国家試験受験の必要条件等を説明した。あわせて、希望者には三者面談を実施し、相互理解を高めた。

4 リメディアル教育の充実

基礎学力の向上を目指した。

- ① 個人の学力に合わせた生物、化学などの理科系科目の復習を実施し、基礎学力の向上を図った。
- ② 漢字検定の受検を促し、対策を行った。この過程により日本語表現力の向上を目指した。

5 地域連携による学生生活の充実

県内企業・団体等と連携し、食品開発あるいはレシピ開発を実施し、学生生活の向上を図った。

- ① 岡山市保健所、JA全農おかやま、岡山県中小企業団体中央会及び公民館等と連携し、レシピ開発、健康推進啓発活動を実施した。
JA全農おかやまと連携してレシピ開発を行うなかで、冬瓜をテーマとした「梅沢富美男&東野幸治のまんぷく農家メシ！」（NHK BSプレミアム、平成30年8月11日放送分）に学生が出演する機会を得た。

6 学生募集の強化

入試広報部と連携し、オープンキャンパス等の広報活動を充実させ、受験者数の増加を目指した。

- ① オープンキャンパスにおいて、管理栄養士養成課程での学び及び管理栄養士に対する意識の向上を図るため、本学部学生主体の体験コーナーを充実させ実施した。

【子ども学部子ども学科】

1 平成31年度に向けての授業内容充実

保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成における教育内容のさらなる充実を図るため、再課程認定後の教科目についての検討を開始した。

2 保幼コース・小学校コース採用試験対策を強化

教志会を中心とした勉強会・採用試験支援対策を行った。

- 夏季セミナー、春季セミナー（1～3年生対象）
- 一次試験・二次試験対策セミナー（4年生対象）
- 実技・面接個人対応（4年生対象）

- 3 子ども学科 commons の利用拡大
学生の主体的学習習慣の涵養に向けて授業内外で働きかけを工夫した。また、授業外では教志会を中心とした自習室としての機能を持たせるようにした。
- 4 M401 学習室の利用拡大
黒板を設置し、小学校における模擬授業自習室としての利用拡大を図った。
- 5 中国学園大学こども・あごら
「おやこひろば」に加え、新規事業企画として「あそびのたね展」3 回、「バレーボール教室」を実施。
- 6 子ども学部子ども学科シンポジウム
「えほんの時間 vol. 3」を 2 月 17 日（日）に実施。
- 7 募集広報戦略の再検討と募集計画
保育所実習・幼稚園実習・小学校実習・施設実習の期間に合わせ、岡山県・福山地区の募集活動を計画する。
- 8 子ども学科保護者懇談会を 10 月 13 日（土）実施した。
就職支援体制、実習等が話題の中心であった。3 年生保護者の出席が多く、希望者には個別面談を実施した。
- 9 入学前オリエンテーションを 2 月 17 日（日）及び 3 月 27 日（月）に実施。
内容：課題図書・問題集・ピアノ実技指導
- 10 募集広報戦略の再検討と募集活動
保育所実習・幼稚園実習・小学校実習・施設実習の期間に合わせ、岡山県・福山地区の募集活動を実施。県内外の高等学校を訪問した。

【国際教養学部国際教養学科】

- 1 国際教養学部のブランド確立のための事業
 - ① 姉妹校の高苑科技大学（高雄市、台湾）から、7 月に 5 名の日本語日本文化研修生を迎えて、一年生を中心とした在学生と交流の機会を持った。また、9 月には一週間の台湾研修に 9 名の学生を派遣するなど、「国際“相互”交流の中国学園」としての実績を積み上げることができた。
 - ② 第 2 回学術講演会（演題：「国際的視点から考えた日本・観光ビジネス」）を 11 月 17 日に開催した。演題は、来年度からスタートする「地域発ビジネス・コース」で取得が可能となる「観光ビジネス実務士」を念頭に入れたものであった。ABPS ディレクター（元 JAL ニューヨーク支店長）水野氏には「航空産業」、(株) リョービツアーズ 専務取締役 小童谷氏には「旅行産業」についてご講演いただいた。両講師とも 50 ケ国以上を訪問した経験をお持ちで、「海外から見た日本」「英語を活かした世界とのコミュニケーション」など多岐に亘る講演内容であった。講演終了後、学生からも質問の手が挙がるなど、有意義な時間となった。参加者は 100 名。
 - ③ 今年で 5 回目となる「高校生のためのプレゼンテーション・コンテスト」が 12 月 15 日に実施した。本戦では 9 名がプレゼンテーションを行った。今回もこれまで同様、優れた内容のプレゼンテーションが続出し、審査員を大いに悩ませたようであるが、日本語部門では岡山学芸館高等学校の発表者、英語部門では清心女子高等学校の発表者にそれ

ぞれ最優秀賞を授与した。参加者は50名。

2 目玉授業の支援

- ① 学生のキャリア意識を向上させる目的で一年次に開講する「トップリーパー講義（担当：佐々木准教授）」、3年次にさらに就職に対する意識を高めることを意図した「トップリーパー経営論」及び学部が目指す「地域発グローバル人材」に欠かせない郷土に関する知識を学ぶ「吉備学（担当：松畑教授）」。30年度は以下の講師陣で実施した。

「トップリーパー経営論」平成30年度講師陣（敬称略）

- 5月8日 (株)ミサイ 代表取締役、岡山県よろず支援コーディネーター 吳 大可
- 5月15日 笠岡市役所 産業部 農政水産課 参事 守屋 基範。笠岡市役所 危機管理部 主事 酒井大喜。NPO エリアイノベーション 代表 藤井 智晴
- 6月12日 JETRO 岡山貿易情報センター係長 堀田 基
- 6月19日 (株)リョウビツアーズ専務取締役 小童谷靖則
- 7月10日 Air Bonheur 代表 藤原奈緒美
- 7月24日 名刀味噌本舗 代表取締役社長 高原隆平。竹あかりアーティスト・空間演出家 吉近翔大

「トップリーパー講義」平成30年度講師陣（敬称略）

- 10月24日（学外授業）林源十郎商店街（有）くま 代表取締役 辻 信行。語らい座 大原本邸・大原美術館 理事長 大原あかね
- 11月14日 ELN 代表取締役 木下寛子
- 11月17日 第2回学術講演会
- 11月28日 NPO 法人タブラサ 代表 利根 弥生
- 12月05日 両備ホールディングス(株) 代表取締役社長 松田 久
- 1月23日 タルマーリー オーナー 渡邊 格氏

「吉備学」平成30年度講師陣（敬称略）

- 11月22日 「閑谷学校と「論語」の学び 素読などを通しての具体的な学び」
公益財団法人 特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会 理事長 國友 道一
- 11月29日 吉備地域からの「地域発グローバル(ローバル)人」の在り方を検討する
備前焼作家 平川 忠
- 12月6日 「私の歴史課題認識」をまとめて発表する
山村エンタープライズ 代表 藤井 裕也
- 12月13日 歴史課題認識を持つ 津田永忠の業績を中心にして
両備ホールディングス株式会社 代表取締役会長 小嶋 光信

3 短期・長期留学の支援

- ① フィリピン・セブ島での「オリエンテーション海外研修」は、今年度も5月の連休明けの6日（日）～16日（水）に実施し、新入生の勉学への意識を高める成果を上げている。
- ② 2年次のセメスター留学は、派遣留学生（奨学生）1名および一般留学生（自費留学生）1名がそれぞれトロントとシドニーに留学し、実践的な英語コミュニケーション力を高めるとともに、渡航前よりも積極性を身に着けるなど所定の成果を収めて無事帰国した。

4 学部広報の充実

- ① 前年同様に、Facebook を中心に、各ゼミの様子や学部の催し物に関する告知または事後報告等を行った。また、大学のホームページの更新に合わせて学部のコンテンツを見やすく、分かりやすいものにした。同時に、平成31年度からの学部のカリキュラム・分野構成

の再編について説明を加えた。また、学部からのお知らせも適宜掲載した。

◎中国短期大学

【総合生活学科】

1 2コース制の特色を活かした効果的な教育の推進

- ① 平成27年度より導入された2コース制（医療事務コース、生活創造コース）の新カリキュラムは順調に実施されており、また、中身についても改善をしながら、質の向上を図ってきた。特に、医療事務コースは選抜コースの位置づけで定員制とし、コース必修科目・コース必修資格取得を明確化することで、医療事務コース所属学生の目的意識がより明確化し、学習意欲向上へ繋がっている。就職面においても、医療事務コース導入以前は採用されなかった医療機関への内定実績が増えつつある。対外的認知度が向上してきているが、更に時代背景に対応した科目として「医療接遇演習」「メンタルヘルス学」を新たに設置し、レベル向上を図った。
- ② 基礎→応用→演習・実習→資格取得・特別研究発表という順次性を重視したカリキュラム編成を進め、学生に判り易い学習の流れを提供し、満足度向上を図った。
- ③ 「介護職員初任者研修」を2年前期へ開講時期を変更し、今年度修了者は19名であった。

2 介護福祉専攻科を総合生活学科へ設置する可能性の検討

- ① 介護福祉専攻科への学生入学増を狙って、介護福祉士と保育士の2つの国家資格取得を謳い文句にして、総合生活学科の一つのコースとして設置する改革案で、カリキュラム編成が可能かどうか検討を進めたが、時間割設定がタイトで難しいと判断された。その後の専攻科改編TF会議での指針を受け、本学科において介護福祉士養成を行うことを前提に諸条件の検討を行っている。

3 高等学校との交流・募集広報活動の推進

- ① 6月上旬入試広報部と連携を取りながら、昨年訪問実績のある過去4～5年間で学生入数が多い高校を中心に、学科の教員で学生の近況報告、学科案内などを兼ねた高校訪問27校を実施した。
- ② オープンキャンパスでは、模擬授業に力を入れ、総合生活学科の特徴をより知ってもらうべく様々な模擬授業を準備し、学生が興味のある模擬授業を自由に選択できる方式を昨年度から継続して進めた。結果として、昨年度は参加者増となったが、今年度も昨年と同等の参加者があり、効果があったと考えている。来年度も更に深化させたやり方で進める予定。
- ③ 今年度も、11月開催される岡山県高等学校家庭クラブ発表会、1月に実施された高梁高校家庭科展を訪問し、観覧・傾聴をした。

4 地域・卒業生との交流、連携

- ① 卒業生、在校生との交流の場として大学祭に「総生サロン」を今年も開催するとともに、今年の学科行事として、10/13(土)「21世紀は環境の時代」の表題で、総合生活学科学科長が講演者で講演会を実施した。総生サロンは、約20名のOG、OBの参加者があった。
- ② 今年初めて大学祭で、短大3学科共同の「中国短期大学フェア」展示ブースを設置した。

予想以上に多く方にご来場いただき、好評であった。次年度の開催も検討をする。

5 2コース制により強化した医療機関への就職支援活動の課題

- ① 学科2コース制へ改編後、第3期生の就活が進んでいるが、医療事務コース学生の医療機関への就職実績が以前より顕著に出始めていたが、昨今の好景気・各分野の人材不足のため、好条件の就職先を選択し、医療機関への就職を選ばないものが増加した。医療事務コースの学生であっても、進路の選択に関して自由度が高いのは、本学科の特徴ではあるが、引き続き、就職支援センターと連携し、医療機関を目指す学生の支援を遂行する。

【保育学科】

本学の建学の精神と教育理念に基づき、保育学科の目指す学生像として、①豊かな人間性を身につけた学生（あたたかい心）、②幅広い専門的知識・技能、実践的指導力を身につけた学生（ひらめく英知）、目標達成に向かって努力する学生（たえぬく努力）、を掲げている。目指す学生像を達成するため、保育学科の経営目標として、①和を大切に、チーム保育学科で対応する、②共通の目的、協働意欲、コミュニケーションを大切に、③教員と学生との信頼関係を基盤とした学生指導を推進する、を掲げて本年度においては次の重点事業に取り組んだ。

1 実践的教育の充実

① 実践的指導力を養う魅力ある授業づくり

- ・講義では、学生が主体的・対話的で深い学びができるように学修課題の提示、教育機器やワークシートを活用した説明、グループ討議、発表、振り返りシートの記入等を取り入れることにより、知識・技能を修得するとともに、それを活用して課題を解決するための思考力・判断力、表現力の育成を図った。
- ・演習では、近隣の保育所、幼稚園と連携して模擬保育の実施、乳幼児との交流等を通して、教科の学修において学んだ知識・技能等を活かし、学びの総合化を図った。
- ・社会福祉等の教科においては、NIE教育を取り入れて実社会と結びつけた学修を行うとともに、読む力、自分の考えなどをまとめて書く力の強化を図った。

② 実習の事前・事後指導における特別講義等の充実

- ・実習では、事前・事後指導の充実することにより、実践的指導力の育成を図った。
- ・助産師・思春期相談員を講師として招聘し、2年生を対象に「子どもに対する性の健康教育のあり方」について講話をしていただき、保育所・幼稚園において遭遇する事柄への適切な対応方法について理解を深めた。
- ・保育実習の事前指導では、近隣の保育所の見学を行うとともに、保育現場の保育士2名を招聘して、保育現場の実態や実習生に望むこと等について講話をしていただき、保育実習に対する心構えと意欲の向上を図った。また、事後指導では、保育実習発表会を実施し、事例発表を通して互いに学びを共有化し、実践的指導力として総合化するように努めた。この発表会には、1年生も参加し、今後の学修への意欲付けと見通しをもつ機会となるようにした。
- ・幼稚園教育実習の事前指導では、近隣の幼稚園の見学を行うとともに、相談支援専門員等3名を講師として招聘し、幼稚園における保育の実態や特別支援教育について講話をしていただき、幼稚園教育実習への心構えと意欲の向上を図った。

③ 学習環境の充実

- ・幼児造形等の教科において、教材・教具等を工夫し、実践的、創造的な学びを保障するように努めた。
- ・音楽基礎演習等の教科において、グレード制を取り入れることで、ピアノの技術の定

着を図った。また、学生が自由にピアノの練習ができるように練習室の使用時間を設定した。

2 学修成果を発表する機会の設定

- ・平成30年6月30日（土）、7月1日（日）にコンベックス岡山を会場に開催された「おぎゃっと21」のイベントに、子育て支援演習Bの履修学生（2年生27名）が授業の一環として参画して中国短期大学保育学科のブースを設置し、簡単な工作等を通して来場した親子と交流を行った。
- ・第47回保育学科発表会を、平成31年2月8日（金）広島県民文化センターふくやま（参加者481名）で、2月10日（日）本学体育館（参加者350名）で開催した。

3 地域連携・地域貢献の積極的な推進

- ・保育学科の存在意義を地域に発信する重要な機会であると捉え、積極的に取り組んだ。
- ・1年年生全員が倉敷私市立幼稚園協会主催の「第40回くらしきキンダーフェスティバル」に賛助出演し、ダンスの演技をするとともに、幼児との交流を行った。
- ・「中短子育てパーク事業」を吉備公民館と共同開催している。その中の「この指とまれ」の事業では、子育て支援演習Bの履修学生（2年生27名、1年生29名）が授業の一環として参画し、室内遊びや中庭での水遊び等を通して地域の子どもや保護者との交流を年5回行った。
- ・「ちゅうたんおもちゃ公園」を3月3日（日）に開催し、おもちゃと絵本のリユース、おもちゃの病院、中庭でのプレイパークを通して、地域の子どもや保護者等との交流を行った。（参加者253名）

4 キャリア教育の推進

- ・ボランティア活動に積極的に参加することにより、社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していくキャリア発達を促すように努めた。また、ボランティア活動を通して、保育学科における学びをさらに広げたり深めたりすることで、実践的指導力の向上を図るようにした。
- ・夏休みの期間中に、1年生及び2年生は保育所、幼稚園、児童養護施設等を自主的に訪問してボランティア活動を行い、幅広い知見を得るとともに、自己の適性等について考える機会となるようにした。
- ・あっぷるのおもちゃ箱（5月26日RSKハウジングプラザ1年生27名参加、10月21日横井小学校1年生42名参加、11月11日イオンモール岡山1年生10名参加）
- ・ちちとコくらぶ（6月10日本学体育館1年生33名参加、12月16日本学体育館1年生16名参加）
- ・吉備陵南まちかど博物館（11月4日1年生10名参加）

5 学生募集のための広報活動の強化

- ・教員が高校内ガイダンスに積極的に参加し、高校生に対して保育学科の教育方針、教育内容、取得資格、就職等について説明するとともに、オープンキャンパスへの参加を呼びかけた。
- ・教員が6ブロック60校の重点高校について、5月～6月中に1回目、7～8月中に2回目の訪問を実施し、進路担当者に面会して学生募集に努めた。
- ・大学祭において、「中短フェア」を総合生活学科、保育学科、情報ビジネス学科の3学科で共同開催し、保育学科の教育方針や教育内容に関するポスターや学生の作品等を展示するとともに、保育学科発表会のダイジェスト版を上映した。

6 卒業生に対するサポートの充実

- ・教員が前年度の卒業生の就職先を訪問し、理事長、園長に採用への謝辞を述べる

とともに、本人と面会して様子等を把握した。

- ・前年度の卒業生を対象に6月3日にホームカミングデイを実施した。また、大学祭期間中（10月13日・14日）に「卒業生のためのしゃべり場」を開催するとともに、大学祭の2日目にはリカレント研修会を実施した。

【情報ビジネス学科】

1 フィールド&ユニット制の導入

平成29年度から、さまざまなニーズの学生たちに、幅広く専門的な学習を効率的に行うために、フィールド&ユニット制を導入し、1年が経過した。専門科目が数多く開講されているため、履修に混乱を招くケースも多かったが、カリキュラムマップをベースにして、丁寧に時間をかけて履修指導を行うことにより、自分の目標をしっかりと定めた上で、効率的な履修が可能になった。フィールド&ユニット制を機能させることにより、広い視野で履修を検討する学生が増え、学修効果は確実に向上していると感じている。今後、しっかりとしたデータ収集を行いながら、この制度の検証を進める予定である。

2 実践学修の強化

実践学修として取り組んでいる、テレビ・ラジオの番組「キニナル箱！」の制作は9年目を迎え、徐々にではあるがクオリティが向上している。視聴者も増加しており、毎月一回の番組にも関わらず、公式サイトでのページビューやメールによるコメントも増加している。

また、地域イベント（倉敷ジャズストリート、里庄町産業文化祭、UNOICHI、倉フェスなど）の運営・ボランティアを行った。倉敷ジャズストリートでは、延べ40名を超える学生が参加した。

産業文化祭では、5名の学生が、サンラビアンと情報ビジネス学科がコラボして商品化した「まこもたけのブリオッシュ」の販売を行い、ステージで約15分間、本短期大学のPRを行った。

倉フェスでは、約15名の学生がボランティアスタッフとして参加し、「キニナル箱！」の取材チームが、出演したミュージシャンにインタビューを行った。

3 学科の特色を活かしたイベントの実施と募集活動の強化

広報活動の一環として、学科独自のイベントであるコスプレイベントを2回開催した。5月に開催したイベントでは、県内外から約400名近い参加者があり、SNSを通して本学の施設のきれいさなどについて拡散された。

募集活動のために、学科独自のチラシを制作した。チラシは、高校に配布すると同時にオープンキャンパスに来た学生やイベントの来客者などにも配布した。また、新規に発行されたフリーペーパー誌の中で、情報ビジネス学科の特集を組んだ。

Ⅱ. 30年度重点事業の取り組み

1 大学及び短期大学の定員確保と学科の発展的改組の推進

大学については、昨年の中国学園大学将来構想検討委員会答申を受け、学内にプロジェクト会議を設置し、具体的な検討を行い、平成31年度から国際教養学部のコース制の導入やカリキュラムの変更を実施するとともに国際教養学部の定員を30名削減し、子ども学部の定員を30名増加することとし、その準備を進めた。

短期大学については、専攻科改編に向けての取り組みの中で、総合生活学科へ介護福祉コースの設置などについて検討を行っている。

また、平成31年4月に開園予定の中国学園大学・中国短期大学附属たねのくにこども園（仮称）については、平成30年4月に準備室を設置し、施設整備や職員採用、保育・教育方針の策定などの開園準備を行った。

2 施設設備の整備推進

本学校舎及び体育館の施設は、平成26年度までに耐震対策工事、大規模改修工事を行い教育環境の整備が完了している。

本学の附属施設として、平成31年4月開園予定の中国学園大学・中国短期大学附属たねのくにこども園（仮称）の施設の建設工事が平成31年2月末に竣工し、3月15日に引き渡しを受けた。

（鉄骨2階建 延床面積 2,303.21㎡、総工費 992,520千円（うち補助額 318,029千円））

3 学生確保の充実強化

入試広報部を中心とした学生確保の取り組みは、昨年度辺りからやや苦戦を強いられている。本年度入試でもWeb出願を全ての入試で実施し、そのシステムの中で入学検定料の免除制度も導入し、出願者数および入学者数の増加を図っている。また、一般入試にA日程、B日程を導入し、受験者増を図り、一定の効果があった。全体の入学者数は、昨年度より増加し、保育・教育系の子ども学部、保育学科は定員を上回る入学希望者があるものの、他の現代生活学部や国際教養学部、短期大学の総合生活学科、情報ビジネス学科では厳しい状況が続いている。学生確保のためには教育内容の充実が基本であるが、来年度はいっそう各学科と連携を取りながら、高校生目線・保護者目線の広報を行い、全教職員一体となって募集体制を強化し学生確保に努めていくつもりである。なお、7月豪雨で災害に遭った受験生に対して、特別措置を行い、適用者もあった。

① 認知度アップと出願数の増加につながる取り組みの強化

- ・講義風景やオープンキャンパス・部活動などをまとめた学園紹介の30分番組をTSCのテレビで放映して認知度をあげた。「未来が花開く大学～中国学園大学・中国短期大学で叶える“夢”～」
- ・「LINE@」を活用して、「本学のお友だち」879人に本学の情報・メッセージ（試験日程やオープンキャンパス開催状況など）を配信し認知度を上げて、出願数を増やしている。
- ・高校生が進路を決める上で重要なイベントの一つであるオープンキャンパスを、参加者が多い7月に土、日と連続して開催し、高校生が参加しやすい日程にした。また、今年度から予約制とし、8月、9月のオープンキャンパスでは、ランチ無料体験を実施し、好評であった。
- ・オープンキャンパスへの参加者のニーズに対応するため1、2年生の参加が多い8、9月には3部制のプログラムで実施した。欠席者には、当日配布した資料を後日郵送し、本学への関心度のアップを図った。

② 本学の理解のための、高校教員・保護者に対する積極的な働きかけの実施

- ・高等学校の進路指導計画を勘案した高校訪問を行っているが、日程調整が十分でない

点も見られた。

- ・オープンキャンパスの充実・工夫を行う中で、参加者が増加している保護者に対してそのニーズに応えるために保護者説明会を6月と7月（2回）の計3回実施した。
- ・高校教員対象の入試説明会を5月に本学で2回、6月に福山で1回実施し、30年度の入試結果や31年度の入試に向けた報告・説明をおこなった。

③ Web出願の定着と一般入試のA日程、B日程制度の導入

- ・Web出願は定着し、あまり問い合わせもなかった。一般入試のA日程、B日程を導入したおかげで、この区分の出願者数は増加したが、歩留まりに課題が残った。

④ スポーツ推薦入学者の確保

- ・本学の女子バレーボール部・女子ソフトボール部にふさわしい競技力の高い学生を確保するため、中国・四国地区から九州を含む西日本地区まで募集範囲を拡大し、スポーツ推薦入学者が11名となった。

⑤ 次年度以降の入試広報の充実に向けての体制整備

- ・接触者等の追跡のためのデータベースシステムを「ev o」にアップグレードした。本学に接触したが、出願に至らなかった生徒に関するアンケートを外部の業者に委託して実施する準備を行っている。大学案内については次の3年分を委託する業者をコンペを通じて選定し、斬新な冊子を編集する準備に入っている。

4 学生支援の充実

学生の大学における満足度は、受験生の出願に与える影響が大きい。

「学生主体の大学」というコンセプトのもとに、学生の立場や参画を念頭においた改革を推進し、学生の満足度をより一層高めていく必要がある。そのため次の取組みを積極的に実施する。

① 就職支援の充実強化

平成30年度の卒業生の就職率は98.9%である。内訳は、大学99.4%、短期大学98.2%、専攻科100%だった。

企業の広報活動開始3月、選考開始6月となっているが、選考開始6月は多くの企業で有名無実である。やはり早くから会社説明会に参加することによって、各業界の県下優良企業から内定をいただいた。

特に、国際教養学部国際教養学科においては、初の卒業生でもあり、当初の目標の観光旅行業をはじめとし、中学校の教員まで幅広く当初の目標を達成した。

就職活動において、インターンシップの参加も重要な要素となっており、今年度は、28人が52事業所で実施することができた。

就職支援を行う上での家庭の協力は大きく、「就職支援センターだより」を12月に発行した。

昨年実施の「先輩との就活カフェ」は、形を変え、「プチセミナー」として、表のとおり開催した。

日 時	内 容	参加者数					
		人間 栄養	子 ど も	国際 教養	総合 生活	保 育	情報 ビジ ネス
2月8日(金) 10:30~12:00	グループワーク対策			1	3		6
2月22日(金) 14:00~16:00	エントリーとはどういうこと？ 就職サイトはどのように見るの？ 求人情報はどのように見たい？ 合同企業説明会のまわり方など			1	2		5
2月25日(月) 14:00~16:00	自己分析と企業研究		2				8
2月26日(火) 14:00~16:00	面接・グループディスカッション対策		4		4		1
3月12日(火) 14:00~16:00	不安解消セミナー	2					6
3月18日(月) 14:00~16:00	自己分析、履歴書・エントリーシート対策	5		3			6
3月19日(火) 14:00~16:00	面接・グループディスカッション対策	6	1	2			2
3月22日(金) 14:00~16:00	自己分析、履歴書・エントリーシート対策	9					3
3月26日(火) 14:00~16:00	面接・グループディスカッション対策	1		3	1		3

おかやま新卒応援ハローワークの協力を得ての「出張ハローワーク」は、今年度も、10月～1月の13日間、毎週木曜日午後実施して延べ85人の学生が就職相談に訪れた。

2月に「業界研究セミナー」を14社の企業をお招きして実施した。また、3月には2日間日程で32社の企業の協力をいただき「学内合同説明会」を実施することができた。

学生就職向上委員を発展的に解消し、就活サポーターを募って組織替した。現在12名で構成している。主に就職ガイダンス等での司会や学生の補助を行っている。

さらに次のことを継続して実施する。

- ・キャリア教育、インターシップの推進や就職ガイダンス、DVD視聴学習や面接練習等の充実
- ・インターネットによる求人受付、地元企業等を含む他団体との連携強化等の継続実施

平成 30 年度卒業生就職者数及び卒業後の進路(主な就職先等)

(令和元年 5 月 1 日現在)

学部・学科名		平成 30 年 度						備 考
		卒 業 数	就職希 望者数	就 職 数	就 職 決定率	進 学	進 路 決 定 率 (就 職 + 進 学) / 卒 業 者 数	
大 学 院	現代生活学研究科							
	子ども学研究科	2	1	1	100.0		50.0	
	小 計	2	1	1	100.0		50.0	
大 学	人間栄養学科	78	77	77	100.0		98.7	
	子ども学科	84	76	75	98.7	4	94.0	
	国際教養学科	17	17	17	100.0		100.0	
	小 計	179	170	169	99.4	4	96.6	
中 計		181	171	170	99.4	4	96.1	
短 期 大 学	総合生活学科	45	39	38	97.4	1	86.7	
	保育学科	106	90	89	98.9	6	89.6	
	情報ビジネス学科	57	41	40	97.6	6	80.7	
	小 計	208	170	167	98.2	13	86.5	
専攻科 介護福祉専攻		7	7	7	100.0		100.0	
中 計		215	179	174	98.3	13	87.0	
合 計		396	348	344	98.9	17	91.2	

<大学（大学院）主な進路先>

◇**子ども学研究科**：就職：学校法人中国学園 中国学園大学・中国短期大学附属たねのくにこども園

◇**人間栄養学科**：就職：岡山市立芳田小学校、奈義町、福山市、一般財団法人積善会<2>、玉野市民病院、医療法人あおぞら会同仁病院、四国がんセンター（独立行政法人国立病院機構中四国グループ）、一般財団法人津山慈風会津山中央病院、医療法人錦秀会、医療法人草加草仁会草加病院、医療法人社団夕咲会グループ井野病院、医療法人社団南淡千遥会南淡路病院、医療法人社団朋和会西広島リハビリテーション病院、医療法人尚賢会高知高須病院、株式会社ザグザグ<6>、株式会社八天堂、株式会社ププレひまわり、株式会社岡山木村屋、株式会社創心會<2>、株式会社マルイ、社会福祉法人あかつき会<2>、社会福祉法人旭川荘、社会福祉法人なかよし会弘西こども園、社会福祉法人四ツ葉会杉の子第二保育園、富士産業株式会社<2>、株式会社ナリコマエンタープライズ（丸之内ヒルズ 両備ヘルシーケア）、淀川食品株式会社<2>他

◇**子ども学科**：進学：和歌山大学院学校教育専攻教科教育コース保健体育領域保健体育科教育分野、朝日医療大学校言語視聴覚学科、中国学園大学大学院 子ども学研究科<2>

就職：赤磐市<4>、浅口市、出雲市、岡山市<3>、倉敷市<6>、総社市、高松市、玉野市、備前市、福山市、真庭市、三原市の小学校、幼稚園、子ども園、保育園、他私立幼稚園、こども園、保育所、学校法人中国学園たねのくにこども園<3>、学校法人中国学園、株式会社 インデッピンターナショナル、株式会社ウォーク（岡山シーガルズ）、株式会社山陽メディアサプライズ、株式会社ネッツトヨタ岡山、株式会社フレスカ、蒲田工業株式会社、ワウハウス岡山株式会社他

◇**国際教養学科**：就職：福山市立神辺西中学校、伊東電機株式会社、内山工業株式会社、株式会社シーズ、株式会社天満屋ストア、株式会社トミヤコーポレーション、四国航空株式会社、日本郵便株式会社、備北信用金庫、みのる産業株式会社（後楽ホテル）、ヤマト運輸株式会社、両備ホールディングス株式会社両備スカイカンパニー、両備ホールディングス株式会社リョービツアーズ岡山支店他

<短期大学主な進路先>

◇**総合生活学科**：進学：専門学校倉敷ビューティカレッジ ビューティ専科ネイルコース就職：医療法人行堂会長野病院、医療法人しんくら歯科医院、医療法人水清会水島第一病院、医療法人徹慈会堀病院、岡山ロイヤルホテル株式会社、株式会社ププレひまわり<2>、株式会社オンワード樫山<2>、株式会社山陽マルナカ、株式会社ファーマシィ<2>、株式会社マルイ、倉敷青果荷受組合、社会福祉法人 P.P.P.、社会福祉法人ももたろう会、大善株式会社、なつかわ歯科<2>、ネッツトヨタ岡山株式会社、広島トヨタ自動車株式会社、水島信用金庫他

◇**保育学科**：進学：東京福祉大学心理学部心理学科、中国短期大学介護福祉専攻科<5>就職：観音寺、総社市、徳島県美馬市<2>、真庭市<3>、美作市のこども園、保育園他、私立幼稚園、こども園、保育所、学校法人中国学園たねのくにこども園<3>、株式会社アイグラン、株式会社内海機械、株式会社エービーシー・マート（ABC-MART岡山ロッツ店）、株式会社こどもの森、マルイチ株式会社他

◇**情報ビジネス学科** 進学：山陽学園大学総合人間学部生活心理学科3年次編入、穴吹医療福祉専門学校公務員学科、出雲コアカレッジ医療ビジネス科、研究生<3>就職：岡本工機株式会社、両備グループ（岡山交通株式会社）、岡山トヨペット株式会社、株式会社アクトシステムズ、株式会社岡山マツダ、株式会社サンジゲン、株式会社ジェイアール西日本フードサービスネット岡山列車営業所<2>、株式会社自重堂<2>、株式会社トマト銀行、株式会社中本屋工務店、株式会社ナルミ

ヤ・インターナショナル、株式会社ハローズ、株式会社ファイブフォックス、株式会社ヘルシーホーム、なかよし矯正歯科クリニック、日本通運株式会社〈2〉、光軽金属工業株式会社、日ノ丸自動車株式会社（米子鬼太郎空港）他

◇**専攻科介護福祉専攻** 就職：医療法人こまくさ会河口医院グループホームこまくさ、医療法人誠和会介護老人保健施設福寿荘、社会福祉法人岡山厚生会ひまわり保育園、社会福祉法人幸輝会特別養護老人ホーム幸輝園、社会福祉法人スキーム福祉の会 特別養護老人ホームグリーン&リバーホーム、社会福祉法人八葉会赤坂保育所、西部島根医療福祉センター

② エクステンションセンター（学生支援部門）の支援活動

学生支援部門は、学生を対象とした学習・国際交流・学園生活支援の各領域について企画・運営を行っている。国際交流支援領域と学園生活支援領域とは関連性が強いいため、全体としては二領域体制で、より効果的できめ細やかな支援ができるように努めてきた。

- 学習支援領域
 - ① 個別指導
 - ② 一般教養及び教職教養講座の開設
 - ③ 基礎学力養成対策
- 国際交流支援領域・学園生活支援領域
 - ① 採用及び講師登録説明会
 - ② 留学生生活支援指導
 - ③ 英会話教材による始業前視聴

(1) 学習支援

◆公立の保育士・幼稚園教諭・小中学校教諭・栄養教諭等の採用試験に向けた個別指導学修室（7121）、支援室（7130）、イングリッシュ・カフェを活用して、全学科の学生を対象とした、進路相談、面接・適性検査・作文・小論文の指導等を個別対応で行ってきた。公立学校園の保育士・教員・行政職（栄養士）の希望学生については学科と連携をとって実施してきた。今年度は延べ1,700件を超える指導を行ってきた。また、学生からの受験報告を元に編集する「保育士・教員志望者のために」を、次年度の試験対策により有効なものになるように内容の見直しを進めている。

◆一般教養試験対策講座および教職教養試験対策講座の開催

就職試験対策として、行政機関、民間会社への就職を希望する四大・短大の学科の学生を対象とした「一般教養講座」（昨年度：75名受講）と、教職を希望する学生を対象とした「教職教養講座」（昨年度：38名受講）を今年度末（2019年3月）に実施予定である。本講座は東京リーガルマインド（LEC）に外部委託しているが、講座の内容・方法については、昨年度の受講生からのアンケートを踏まえて改善してもらうようにLECと協議している。

◆基礎学力養成

全学科に共通の基礎学力養成を目的として、昨年度より、新入生に対して漢字能力検定3級（中学校卒業程度）を目安に受験する機会を設定している。今年度も人間栄養学科のみが参加し、ファーストイヤーセミナーでの事前学習を7回実施後、6月9日に検定試験を実施した。3級を32名が受験し18名合格、準2級を8名が受験し4名合格、2級は8名が受験し合格者1名であった。今回も実施後のアンケート調査では「漢字検定の学習と受験は役にたったか」は「役に立った」が67%、「漢字検定を通じ得られた知識は今後活かせると思いますか」は「とてもそう思う」が52%、「まあまあそう思う」が40%であった。

また、基礎学力が不足している学生に対する個別の学習指導を1月から4名の学生に対して実施している。

(2) 国際交流支援

◆教員採用試験及び講師登録説明会の実施

4月に岡山市・岡山市教員採用試験説明会を実施した。10月には講師登録説明会を実施した。対象学科は主に人間栄養学科、子ども学科、国際教養学科である。

◆留学生指導及び就職ガイダンスの実施

複数学科にわたる留学生を一括して生活指導・進路相談を行っている。在留ビザなど留学生特有の諸条件を踏まえた留学生のみを対象とした就職ガイダンスを5月16日（15名参

加)と1月23日(13名参加)に実施した。

◆英会話教材による始業前視聴

イングリッシュ・カフェの利用促進に取り組んでいる。

英会話教材(スピード・ラーニング:特殊法人契約)を用いて、毎週月曜日~木曜日の始業前8:50~9:10に、全学科学生を対象にイングリッシュ・カフェで視聴機会を設けてきた。前期・後期各期で出席率の高い学生を奨励表彰するなどして、学生の主体的な参加を呼びかけている。今年度前期は12名が参加し4名が表彰され、後期は3名が参加し2名が表彰された。

③ 学生生活及び学生支援に関わる施設整備の充実

・1日駐車場の発行を含めた学生駐車場の有効活用

現在、学生用に91台分学生駐車場を設けているが平成30年度許可台数は79台、臨時1日駐車券の発行は500枚であった。

自家用車通学学生には交通安全講習会を義務づけ、学生による交通事故防止につながっている。

・JR庭瀬駅からの通学路の交通指導

本学学生の約77%が自宅から通学している現状から、新入生オリエンテーションにおいて、通学路における交通安全指導を行うとともに4月授業開始時から3日間、5月にも1週間学生の交通委員と教員が街頭指導を行った。

・学生食堂の食事内容やメニューの改善

学生食堂のメニューと売店の品揃えについて、月に1度の話し合いを設け改善に努めるよう心がけた。来年度より業者が変更となるため、学生のニーズにあった充実したメニュー作りに期待する。

平成29年10月より後援会による学生健康サポート支援活動として、学生達の食生活のバランスを考え、朝食(パン・ヨーグルト)、昼食(サラダ・飲み物・デザート)の提供を実施した。

・光風寮の設備・備品の更新や生活環境整備

光風寮も毎年、生活環境の改善・整備を推進。平成30年度は80名の寮生でスタートを切り、運営をしている。

④ 学生の経済面支援の充実周知徹底

平成30年度7月豪雨の被災学生に学費免除等の特別措置を行った。被災状況により授業料の全額免除、半額免除、見舞金の支給を行った。通学困難な学生達に対しては寮の提供(女子学生)も行った。

本学独自の奨学制度では、平成30年度学業成績優秀者優待者15名、修学支援優待生16名が採用された。その他卒業生の子の入学優待制度に22名、兄弟姉妹在学生支援制度に9名、沖縄等遠隔地学生支援制度に1名が該当した。日本学生支援機構の奨学制度は平成30年9月1日現在、621名で全体55%に達している(平成29年度52%)。

本学提携の民間金融機関の教育ローンの紹介にも努め、個人相談にも積極的に対応した。

⑤ 学生相談体制及び健康管理対策の充実等

学生相談については、臨床心理士と連携を図り学生の修学支援に努めている。

平成29年度に障がい学生修学支援規程を制定し、平成30年度は、2回の支援連絡協議会を開催し、その協議内容を支援委員会で報告した。2019年度は、合理的配慮申請を提供した学生への支援が大学全体で機能できるよう活動する。

大学コンソーシアム岡山「障がい学生支援委員会」とも連携を密にし、今後一層の支援対策を整えていく必要がある。

学生生活を健康的に送るために「学生間での集団感染や感染拡大を未然に防止するため、2019年度から学生健康診断のX-P撮影は直接撮影に変更。麻疹・風疹の予防接種証明書の提

出を徹底し、免疫が獲得されているか状態把握の後の通学とした。定期健康診断後の健康教育にも取り組んでいる。留学生にむけての健康サポートもスタートさせている。

学生の生活支援の一貫として学生支援セミナーを実施している。犯罪被害に遭遇しないための防犯セミナー、エイズ・性感染症・性教育出前講座、依存症についてのタバコと健康等を開講した。

⑥ 学生生活への支援

・学友会活動の運営支援

7月豪雨の被害に遭われた方々へ復興の気持ちを込め今年度は12月のクリスマスのイルミネーションを竹と明かりに願いをつなげ竹のモニュメントを作成した。

学友会より被害に応じ見舞金も行った。

10月は白鷺祭（大学祭）の運営支援を行った。

・学生生活実態調査、寮生アンケート、意見箱、学長と語る会、リーダーズキャンプ等を実施し、学生の意見を集約し、改善に努めた。

・学生生活向上委員会は学内清掃活動等も積極的に行った。

・9月に全学（学生・教職員）に対して学内避難訓練を実施した。光風寮においては避難訓練を春・秋2回実施し、避難経路、防災器具の取扱説明を行い意識向上努めている、

・レンタルサイクルやレンタル傘等の日常生活支援

学生用に自転車8台、傘70本常備し学生への便宜を図っている。利用者数は自転車延べ424台、レンタル傘延べ319本の利用があった。大変好評である。

・2019年度から学生生活におけるガイドブックとしての役割を持っている学生手帳を改定し、よりわかりやすいガイドブックを作成した。

5 図書館活動の充実

① 学生の積極的な学修のための支援

・年度当初には新入生オリエンテーションを学科別に実施した。新入生オリエンテーション時に図書検索実習を取り入れた学科もあった（情報ビジネス学科）。

各学部・学科と協力し、図書館利用および図書館情報検索ガイダンスを随時行った（平成30年度は総合生活学科・現代生活学部人間栄養学科に対しクラス又はゼミ単位で実施）。

・学生の作文力を高めることを目的にして図書館大賞（読書感想文コンクール）の募集を行い、53篇の応募があった。最優秀賞1篇、優秀賞2篇、佳作3篇を選び、学長表彰を行った。

・「図書館 de プチ講座」を2回行った。開催時間が授業と重なるため学生の参加は少なかったが、講師の教員のゼミ生や地域住民などを含む20名前後の参加をみた。

② 大学の知的財産の積極的活用

・図書館システム未登録の図書館資料（主に視聴覚資料）の入力を引き続き進めている。また、数年来入力作業を続けている各大学紀要のコンテンツを入力した。登録に当たっては、学生アルバイトを活用した。

・退職教員の研究図書の整理・登録を行った。また、廃棄予定の図書を再度他の教員の研究図書として活用できるよう内覧会を行い、所蔵の付け替えを行った。

・本学紀要については今まで利用してきた岡山共同リポジトリ事業が今年度を持って終了するため、オープンアクセスリポジトリ協会と国立情報学研究所が共同運営している JAIRO Cloud へのデータの移行を行なった。3月末現在 992 件 Web 公開している。

③ 資産の維持管理の強化

・専門業者に図書館内の蔵書点検を委託した。その結果を踏まえ、未登録資料のピックアップと、配架調整、紛失資料の洗い出しなどを行った。結果、紛失・重複・破損・汚損などで 5,029 件の資料を除籍した。除籍資料は希望者に譲渡し、残ったものは活用法を検討中である。な

お、未登録資料の登録は今後続けていく。

6 社会的責任・地域貢献への取組みの推進

地域社会との連携・良好な関係構築を、社会的使命並びに本学の存在価値向上のキーファクターと捉え、引き続き地域活性化・地域創生を目的に事業を展開する。

【エクステンションセンター（地域連携部門）】

地域連携部門は、地域社会に真に貢献することができるよう、各学部・学科との連携・協働を図り、事業内容を精査しながら業務を遂行してきた。

公開講座については、教職員や学生が、大学が有する知的財産を市民と共有するとともに、「活力あるまちづくり・人づくり」に協力できる良き機会であることを意識して、計画実施してきた。その中でも特に「専門講座」は、毎回行っているアンケートで収集した受講者の声を反映させ、高い評価をいただける講座となるよう準備し、受講者と収益増につなげることができるよう努力してきた。

また、ボランティアとして参加した学生も大いに学び成長できる場となるように取り組んできた。

・公開講座

- (1) 土曜“楽”習講座（受講者数 66 名）
 - 1) 「陶芸に親しむ」(5/19)【2 名】
 - 2) 「面白い「茶」の世界」(6/16)【12 名】
 - 3) 「料理教室 1（男の料理教室）」(7/14)【19 名】（学生参加者数 アルバイト 3 名）
 - 4) 「「アドビ・イラストレーター」お遊びデザイン講座」(8/25)【9 名】
 - 5) 「料理教室 2（男の料理教室）」(9/29)【16 名】（学生参加者数 アルバイト 3 名）
 - 6) 「ストレスの“見方”を変えて“味方”にする」(11/17)【8 名】
- (2) 大学公開セミナー（受講者数 47 名）
 - 1) 「運動が苦手でもできるソフトバレーボール」(5/30)【8 名】
 - 2) 「外国に行こう！ー海外旅行を極めるー」(7/25)【13 名】
 - 3) 「中学生を対象とした食育の推進について」(9/26)【18 名】
 - 4) 「空気を使って彫刻しよう」(11/28)【1 名】
 - 5) 「映画の中のシェイクスピア」(1/30)【7 名】
 - 6) 「なぜ「筋肉は裏切らない」のか」(3/13) ⇒ 予定
- (3) 図書館 de プチ講座（受講者数 41 名）
 - 1) 「教育的に叱るとは」(6/29)【20 名】
 - 2) 「サッカーと地域貢献」(10/3)【21 名】
- (4) 専門講座
 - 1) 「コーラス講座」（コールかやの木）【31 名】
 - 2) 「和太鼓講座」（白鷺）【16 名】
 - 3) 「ハンドベル講座」（華音）【18 名】
 - 4) 「吹奏楽講座」（しらさぎシンフォニックバンド）【9 名】
 - 5) 「みんなでいきいき百歳体操 ～自分発!!健康づくり・仲間づくり～ 【10 名】
（学生参加者数 ボランティア 25 名）
 - 6) 「情報基礎 Word&Excel 初級講座」(9/5～12/19 全 16 回)【3 名】
 - 7) 「キッズイングリッシュ」(5/13、7/1)【33 名】
 - 8) 「川崎紫明音符ビッツ体験講座」(9/15)【大人 3 名・子ども 3 名】
- (5) 白鷺祭講座 (10/13、14)【大学 437 名・短大 271 名】
- (6) 児童英語教育講座 (10/28)【39 名】

・地域連携

- (1) 日ようび子ども大学 (6/3) (学生参加者数 28 名)
- (2) 吉備創生カレッジ 前期 2 講座【8 名】・後期 4 講座【24 名】
- (3) エコナイト「ミニエコ講座とアコースティックライブ」(7/4) (学生参加者数 50 名)
- (4) 吉備・陵南 おかやま木堂ふるさとまつり (7/28) (学生参加者数 21 名)
- (5) 産学官民連携 (岡山商工会地域振興・経営発達計画推進委員会) (8/31、3/26⇒予定)
- (6) 吉備・陵南 まちかど博物館 (11/4)
(学生参加者数 パレード 47 名・ボランティア 37 名・オープニングセレモニー和太鼓サークル「鼓魂」10 名)

・教育支援人材育成

- (1) 備中子どもサポーター育成講座
(5/17、6/26、7/2、9/28、10/26、11/2、12/4)
- (2) 教育支援人材認証講座 in 総社南高校 (6/30、7/8)
- (3) こどもパートナー認証講座 (8/5、3/16、3/17)

7 教職員の意識改革と教育・研究方法の改善

優秀な教職員を安定的に確保し、その資質向上を図ることは学校法人の重要な課題である。授業内容・方法の改善を目指した組織的な取り組みであるFD(ファカルティ・ディベロップメント)と職員の資質向上のための組織的な取り組みであるSD(スタッフ・ディベロップメント)活動を積極的に進めるため、次のことを実施した。

- ・FD委員会の活性化
- ・FD研修会(3回)の実施と授業へのフィードバック
- ・公開研究授業の拡大と充実
- ・学生による授業アンケートの改善・充実と集計結果の公表
- ・シラバスの改善・充実
- ・SD委員会の活性化
- ・SD研修会(4回)の実施による職員の資質向上

8 自己点検・評価及び認証評価の取り組みの推進

平成14年に学校教育法の一部が改正され、平成16年度から、全ての大学は、7年に一度教育研究・組織運営・施設設備及び財務等の総合的状況について第三者の評価(機関別評価)を受ける義務が生じている。

本学は、短期大学が平成27年度に(財)短期大学基準協会の2巡目の評価を受け適格認定書の交付を受けた。また、大学においても、平成28年度に(財)日本高等教育評価機構の2巡目の評価を受け適格認定書の交付を受けた。

大学、短大とも第3クールでは基準を変更し新たな評価が始まるため、これに対応した体制を整備し取り組みを進めている。

9 経営基盤の強化

① 円滑な管理運営

ア. ガバナンスの確立

私立学校の経営体制の安定と財政基盤の充実には、ガバナンスの確立が必要である。理事会の法人業務の最終意思決定機関としての位置付けや学内理事による常任理事会の設置により、円滑な大学運営を図る。「理事会業務委任規則」等の確実な実施運営や常任理事会の充実等、内部監査組織の機能強化とコンプライアンスに努めた。

イ. リスク管理体制の構築

平成28年度に取りまとめた危機管理マニュアルを基に、危機管理と危機対策を推進す

るとともにコンプライアンスの強化を図った。

- ・ 有人警備の効率的運用
- ・ 法改正に伴う防災組織（消防組織、火災訓練等）の確立
- ・ 学生の避難訓練の実施（平成30年9月3日）
- ・ ネットワーク環境とセキュリティ管理のさらなる充実 等

② 健全な財政運営

ア. 財政基盤の強化

- ・ 科学研究費補助金をはじめ外部資金の積極的な導入を図るとともに、在学生数とこれを支える教員・事務組織を適正化に留意し、運営上の収支均衡を図る。

人件費比率 (人件費/経常収入)	平成29年度 66.0%	平成30年度 70.1%
---------------------	-----------------	-----------------

- ・ 教育研究の充実のため、収入とのバランスを図りながら、必要な経費を投下し、教育環境の維持改善を図る。

教育研究経費比率 (教育研究経費/経常収入)	平成29年度 35.6%	平成30年度 38.2%
---------------------------	-----------------	-----------------

- ・ 管理経費については、施設設備、各種システムの維持管理の見直し及び光熱水費等管理経費の適正な抑制に努める。

管理経費比率 (管理経費/経常収入)	平成29年度 8.9%	平成30年度 9.0%
-----------------------	----------------	----------------

イ. 施設設備及び各種システムの整備充実

質の高い教育研究の展開を可能にするために、施設設備の整備、各種システムの構築、更新・充実を引続き進めた。

- ・ 前年度に引き続き光風寮の公共下水切替2期工事を実施した。
- ・ ポンプ室加圧給水ポンプユニット交換や図書館及び12号館エレベーター戸開走行保護装置設置工事、光風寮玄関ホールエアコン取替工事などを実施した。

主な修繕工事等

単位：円

工事名称等	施工箇所等	金額(円)	備考
1 公共下水切替2期工事	光風寮	16,803,439	
2 加圧給水ポンプユニット更新工事	ポンプ室(3台)	5,562,000	
3 エレベーター戸開走行保護装置設置工事	図書館及び12号館	1,792,800	
4 排水ポンプ更新工事	本館1階機械室(2台)	1,868,400	
5 パッケージエアコン取替	11号館2F系統	1,836,000	
6 ウレタン塗布	体育館アリーナ	1,252,800	
7 電気温水器修理	図書館事務室	213,570	
8 空調機修理	11号館3Fサーバー室	324,000	

9	空調機膨張タンク取替	本館 4F 機械室	194,400	
10	給水管漏水修理	本館 2F 男子トイレ	166,320	
11	漏水ドレンパン設置	本館 1F 女子トイレ天井内	232,200	
12	エアコン取替工事	光風寮玄関ホール	448,200	
13	受水槽配管修理	光風寮	399,600	
14	居室修繕	光風寮	278,640	
15	エアコンクリーニング	光風寮	334,800	
計			31,707,169	

ウ. E C O対策への取り組み

本学のE C O対策への取り組みについては、従前から、建物のトップライト方式や冷暖房設備を吸収式冷暖房設備からG H P（ガスヒートポンプ）冷暖房設備への切替え等を実施しているところである。

平成25年2月に竣工した体育館においても、アリーナとステージの照明設備をすべてL E D照明とすると共に太陽光発電設備を設置するなどの取り組みを行っている。3・4号館の大規模改修工事でも、トイレ照明を人感センサー式とし、講義室等のダウンライトはL E D照明とした。

照明器具を更新する際にはL E D照明にするとともに人感センサーによる点灯時間の短縮を行っている。

また、クールビズ、ウォームビズを実践し適正な室内温度管理に努め、E C O対策への取組を進めている。

エ. 職員の給与

本法人の職員給与については、国家公務員の退職手当支給率の改正に伴い、私立大学退職金財団の交付率にあわせて改正を行った。また、俸給、期末・勤勉手当についても、国家公務員の人事院勧告等を勘案して、平成28年4月1日改定をした。

平成30年度は、本学の状況を鑑み職員の給与の改定は行わなかった。

6. 教育研究の概要

①教育研究上の基本となる組織に関する情報

大学等	学部・研究科等	学 科	課程等
中国学園大学	現代生活学部	人間栄養学科	
	子ども学部	子ども学科	
	国際教養学部	国際教養学科	
	現代生活学研究科		人間栄養学専攻
	子ども学研究科		子ども学専攻
中国短期大学	総合生活学科		
	保育学科		
	情報ビジネス学科		
	専攻科		介護福祉専攻

②教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報

大学等	学部・研究科等	学 科	教員数
中国学園大学	現代生活学部	人間栄養学科	25人
	子ども学部	子ども学科	17人
	国際教養学部	国際教養学科	(4年目) 15人
	現代生活学研究科	(人間栄養学専攻)	(基礎学部を含む)
	子ども学研究科	(子ども学専攻)	(基礎学部を含む)
中国短期大学	総合生活学科		7人
	保育学科		15人
	情報ビジネス学科		6人
	専攻科介護福祉専攻		(基礎学科を含む)
【教員の保有学位または職務上の実績等】 ※ 別冊 資料			

③学生に関する情報

【学生数等】

(平成30年5月1日現在)

大学等	学部・研究科等	入学者数	収容定員	在籍者数
中国学園大学	現代生活学部 人間栄養学科	48(2)	328	235
	子ども学部 子ども学科	91(6)	300	342
	国際教養学部 国際教養学科	38	330	102
	現代生活学研究科 人間栄養学専攻		10	0
	子ども学研究科 子ども学専攻	2	10	4
	小計	179(8)	978	683
中国短期大学	総合生活学科	49	170	96
	保育学科	118	240	227
	情報ビジネス学科	62	160	126
	専攻科 介護福祉専攻	7	40	8
	小計	236	610	457
合計		415(8)	1,588	1,140
注()は内数で編・転入者を含む				
<p>【大学：入学に関する基本的な方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代生活学部 人間栄養学科：中国学園大学学則第1条の2の第1号による ・子ども学部 子ども学科：中国学園大学学則第1条の2の第2号による ・国際教養学部 国際教養学科：中国学園大学学則第1条の2の第3号による ・現代生活学研究科 人間栄養学専攻：中国学園大学大学院学則第1条の2の第1号による ・子ども学研究科 子ども学専攻：中国学園大学大学院学則第1条の2の第2号による ・総合生活学科：中国短期大学学則第1条の2の第1号による ・保育学科：中国短期大学学則第1条の2の第2号による ・情報ビジネス学科：中国短期大学学則第1条の2の第3号による ・専攻科 介護福祉専攻：中国短期大学学則第41条の2による 				

④学習環境に関する情報

大学等	キャンパス	学部・研究科等	所在地	主な交通手段
中国学園大学	庭瀬 キャンパス	現代生活学部 人間栄養学科 子ども学部 子ども学科 国際教養学部 国際教養学科 現代生活学研究科 人間栄養学専攻 子ども学研究科 子ども学専攻 総合生活学科 保育学科 情報ビジネス学科 専攻科 介護福祉専攻	岡山市北区庭瀬 83 番地	山陽本線庭瀬駅 下車 徒歩 15 分
中国短期大学		撫川グランド (認定こども園開園予定地)		

⑤学生納付金に関する情報

学部・学科		授業料		入学料		その他の費用徴収	
		金額	納入時期	金額	納入時期	金額	納入時期
中国 学園 大学	現代生活学部 人間栄養学科	50 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日	25 万 円	入学手続時	50 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日
	子ども学部 子ども学科	50 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日	25 万 円	入学手続時	40 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日
	国際教養学部 国際教養学科	64 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日	25 万 円	入学手続時	40 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日
	現代生活学研究科 人間栄養学専攻	40 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日	25 万 円	入学手続時	30 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日
	子ども学研究科 子ども学専攻	40 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日	25 万 円	入学手続時	20 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日
中国 短期 大学	総合生活学科 保育学科 情報ビジネス学科	41 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日	25 万 円	入学手続時	38 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日
	専攻科 介護福祉専攻	40 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日	25 万 円	入学手続時	35 万 円	4 月 20 日 10 月 20 日

【授業料減免制度等の概要】

- ・減免対象の種類、要件
- ・必要手続等

○入学料は、本学の卒業生に限り免除とする

○特待生のための試験において選抜する学業成績優秀者

A: 入学金免除及び授業料（1年間）の全額免除

B: 入学金免除及び授業料（1年間）の半額免除

○入学試験において特に成績優秀であった者は、入学金免除及び授業料（1年間）の半

額免除

- 経済的に修学が困難になった者で成績良好な者の修学支援優待生、授業料（1年間）の半額免除
- 本学卒業生を保護者（戸籍上の親）とする新生入生、入学金の免除
- 本学に兄弟姉妹が同時期に在学する場合、その在学期間の弟又は妹、の授業料 1/3 相当額免除

⑥学生支援と奨学金に関する情報
〈学生支援機構〉

区 分	組 織 名	機 能
就職支援	就職支援センター	面接重視による希望と納得を踏まえた就職活動の支援。企業開拓（求人開拓）、就職ガイダンスやeラーニング、インターシップ等の推進によるキャリア形成支援
	エクステンションセンター （学生支援部門）	保育士、幼稚園教諭、小学校教諭などの採用試験対策として、専門試験、面接練習、一般教養試験、論文作成等の指導と採用試験説明会や講師登録説明会を行い支援している
生活支援 （住居、アルバイト等）	学生課	学生課職員が掲示・パソコン等を通じて学生に随時紹介している
保健・衛生	保健室	専門職員を配置し、健康に関する相談、けがや病気の応急措置等に対応している 定期健康診断の実施及び健康診断証明書の発行
メンタルヘルス	学生相談室	専門職員がインテーカーとして対人関係・学業・進路・心の健康等の相談に応じている

〈奨学金〉

種 類	要 件	申 込 方 法
日本学生支援機構 第1種（無利子） 第2種（有利子）	人物、学業ともに優秀、健康 経済的理由による修学困難	本人の願い出により選考し、日本学生支援機構へ学生課を経由して推薦
地方公共団体による奨学金 ・岡山市奨学生 ・倉敷市奨学生	それぞれ市内居住者またはその子ども 人物、学業ともに優秀、健康 経済的理由により修学困難他の奨学金を受けていないこと 等	本人が直接該当市教育委員会事務局へ申請 担任による推薦調書が必要
ノートルダム育英財団	岡山県内の大学・短大に在学する学生（1年・院博士課程は除く） 人物、学業ともに優れ、将来社会貢献を期待できる者	本人の願い出により、学生課を経由して推薦 指導教官の推薦書が必要
あしなが育英会	保護者（父・母）病気や災害若しくは自死などにより、著しい後遺症を負い、教育費に困っている家庭の子ども	本人の願い出により、学生課を経由して推薦 学長または学部長の推薦が必要

島根育英会	島根県出身で、学校教育法に基づく大学・短大・大学院・高等専門学校（4年生以上）、専修学校（専門課程）に進学しようとする者、または在学生の内、人物、学業ともに優秀で、学費支弁の困難と認められる者	高等学校卒業見込み者は出身高等学校を經由して申請書の提出 大学・短大は本人が直接育英会事務局へ提出 担任の推薦調書が必要
交通遺児育英会	保護者等が交通事故で死亡したり、重い後遺障害のため働けず、経済的に修学困難な学生	本人の願い出により、学生課を經由して推薦 学長または学部長の推薦書が必要
公益財団法人 小松奨学財団	人物・学業ともに優秀で経済的援助が必要と認められた者	本人の願い出により、学生課を經由して推薦 学長または学部長の推薦書が必要
公益財団法人 ハローズ財団	学術優秀、健康、品行方正で経済的な理由により学費の支弁が困難な者	本人の願い出により、学生課を經由して推薦 学長または学部長の推薦書が必要
一般社団法人 生命保険協会	保育士養成のための学科に在籍し、将来保育の専門職として活躍する志を持った学生 学業・人物ともに優秀でかつ健康で修学において経済的援助を必要とする学生	本人の願い出により、学生課を經由して推薦 学長の推薦書が必要

〈特待生・優待生等〉

種 類	減免額等	対 象	対象学生
学業成績特待生制度 (新入生)	入学金免除及び授業料（1年間）の全額又は半額免除	特待生のための試験を実施して選抜	大学1年次生 各学部2名
学業成績優待生制度 (在学生)	入学金免除及び授業料（1年間）の半額免除	入学試験において特に成績優秀であった者	短大1年次生 全学科で6名
学業成績特待生制度 (在学生)	10万円の給付	学業、人物ともに優れた者	大学2・3・4年次生 短大2年次生 学生40名につき1名
経済的修学支援 優待生制度	授業料（1年間）の半額免除	経済的に修学が困難になった者で成績良好な者	大学・短大全学年 両大学で15名以内
卒業生の子の 入学優待制度	入学金の免除	本学卒業生を保護者（戸籍上の親）とする新入生	大学・短大1年次生 該当者全員
兄弟姉妹学生 支援制度	在学期間中の弟妹の授業料1/3相当額	本学に兄弟姉妹が同時期に在学する場合、その在学期間の弟または妹	大学・短大全学年 該当者全員
沖縄県等遠隔地学生支援制度	入学金の免除及び寮費、管理費の半額免除	沖縄県からの入学者	大学・短大全学年 該当者全員

7. 財務の概要

(1) 資金収支の推移（法人全体）

資金収支計算書は当該会計年度（4月1日から翌年3月31日）に行った諸活動に対応する全ての資金の動きを記録することによって、当該年度の収入と支出の内容を明らかにし、資金の顛末を表すものです。

法人名： 学校法人 中国学園

資金収支計算書の状況

（単位：千円）

収入の部			
科 目	平成28年度	平成29年度	平成30年度
学生生徒等納付金収入	1,122,198	1,110,989	1,101,841
手数料収入	15,871	14,880	16,670
寄付金収入	6,000	6,200	7,608
補助金収入	169,651	115,528	455,561
国庫補助金収入	167,725	113,409	134,943
地方公共団体補助金収入	1,926	2,119	320,618
資産売却収入	632,111	1,858,064	1,400,085
付随事業・収益事業収入	23,553	21,576	17,790
受取利息・配当金収入	63,181	53,595	38,799
雑収入	62,064	57,511	44,987
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	271,721	280,176	297,485
その他の収入	326,551	315,720	344,534
資金収入調整勘定	△ 361,911	△ 325,668	△ 632,761
前年度繰越支払資金	921,011	975,575	999,411
収入の部合計	3,252,000	4,484,147	4,092,009
支出の部			
科 目	平成28年度	平成29年度	平成30年度
人件費支出	907,711	920,250	953,407
教育研究経費支出	269,658	265,217	294,100
管理経費支出	101,853	112,956	118,480
借入金等利息支出	5,552	4,968	4,383
借入金等返済支出	30,760	30,760	30,760
施設関係支出	10,492	9,823	1,080,789
設備関係支出	26,315	37,774	98,766
資産運用支出	653,044	1,850,000	400,000
その他の支出	292,805	278,780	336,439
資金支出調整勘定	△ 21,766	△ 25,791	△ 52,922
翌年度繰越支払資金	975,575	999,411	827,807
支出の部合計	3,252,000	4,484,147	4,092,009

* 各表は科目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していない場合があります。

(2) 事業活動収支の推移（法人全体）

事業活動収支計算書は当該会計年度（4月1日から翌年3月31日）の事業活動収支の内容を明確にし、基本金へ組み入れる額を控除した事業活動収支の均衡を表すものです。

法人名: 学校法人 中国学園

事業活動収支計算書の状況

(単位: 千円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
		学生生徒等納付金	1,122,198	1,110,989	1,101,841
		手数料	15,871	14,880	16,670
		寄付金	6,220	6,200	2,608
		経常費等補助金	165,560	111,868	134,303
		付随事業収入	23,553	21,576	17,790
		雑収入	61,606	57,511	44,987
	教育活動収入計	1,395,007	1,323,024	1,318,199	
	事業活動支出の部	科 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
		人件費	907,581	909,202	950,683
		教育研究経費	516,012	489,715	518,155
		管理経費	111,097	121,840	122,157
		徴収不能額等	395	1,173	2,453
教育活動支出計		1,535,084	1,521,930	1,593,447	
教育活動収支差額	△ 140,078	△ 198,907	△ 275,248		
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
		受取利息・配当金	63,229	53,644	38,847
		教育活動外収入計	63,229	53,644	38,847
	事業活動支出の部	科 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
		借入金等利息	5,552	4,968	4,383
		教育活動外支出計	5,552	4,968	4,383
教育活動外収支差額	57,677	48,677	34,464		
経 常 収 支 差 額			△ 82,401	△ 150,230	△ 240,784
特別収支	事業活動収入の部	科 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
		資産売却差額	3,016	8,058	77
		その他の特別収入	4,550	4,275	326,523
	特別収入計	7,566	12,334	326,601	
	事業活動支出の部	科 目	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
		資産処分差額	1,947	2,461	14,404
		その他の特別支出	28,000	28,001	34,493
	特別支出計	29,947	30,462	48,897	
	特別収支差額	△ 22,381	△ 18,129	277,703	
	基本金組入前当年度収支差額			△ 104,782	△ 168,359
基本金組入額合計			△ 2,000	△ 35,784	△ 1,158,359
当年度収支差額			△ 106,782	△ 204,143	△ 1,121,440
前年度繰越収支差額			△ 1,338,488	△ 1,439,777	△ 1,643,920
基本金取崩額			5,492	0	0
翌年度繰越収支差額			△ 1,439,777	△ 1,643,920	△ 2,765,360
(参考)					
事業活動収入計			1,465,802	1,389,002	1,683,647
事業活動支出計			1,570,584	1,557,361	1,646,727

* 各表は科目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していない場合があります。

(3) 貸借対照表（資産の状況）の推移（法人全体）

貸借対照表は期末（会計年度末：3月31日）における資産・負債・純資産（基本
金および繰越収支差額）を把握し、財政状態の健全性を表すものです。

法人名：学校法人 中国学園

貸借対照表の状況

（単位：千円）

資産の部 科目	平成28年度	平成29年度	平成30年度
固定資産	8,193,485	7,216,816	8,147,447
有形固定資産	6,298,985	6,112,073	7,043,984
土地	1,314,646	1,314,646	1,314,646
建物	4,194,618	4,030,295	4,828,251
構築物	183,377	165,844	278,689
教育研究用機器備品	197,473	175,824	215,597
その他の機器備品	9,922	11,893	11,922
図書	398,908	403,710	394,848
車両	40	40	32
建設仮勘定	0	9,823	0
特定資産	0	0	0
その他の固定資産	1,894,501	1,104,743	1,103,462
電話加入権	1,102	1,102	1,102
無形固定資産	0	0	0
有価証券	1,889,764	1,099,813	1,099,861
施設設備拡充引当特定資産	0	0	0
長期未収入金	0	0	0
長期前払金	3,635	3,828	2,499
流動資産	1,242,736	2,053,011	1,193,054
現金預金	975,575	999,411	827,807
未収入金	56,936	52,864	350,132
有価証券	210,000	1,000,000	0
立替金	0	0	8,444
前払金	225	736	6,671
資産の部合計	9,436,222	9,269,827	9,340,501

（単位：千円）

負債の部 科目	平成28年度	平成29年度	平成30年度
固定負債	573,976	554,604	559,638
長期借入金	246,080	215,320	184,560
退職給与引当金	320,959	337,911	363,187
長期未払金	6,937	1,372	11,891
流動負債	355,905	377,241	405,961
短期借入金	30,760	30,760	30,760
未払金	24,647	31,131	41,668
前受金	271,721	280,176	297,485
預り金	28,777	35,174	36,049
負債の部合計	929,881	931,845	965,599
純資産の部 科目	平成28年度	平成29年度	平成30年度
基本金	9,946,118	9,981,902	11,140,262
第1号基本金	9,842,118	9,877,902	11,036,262
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	0	0	0
第4号基本金	104,000	104,000	104,000
繰越収支差額	△ 1,439,777	△ 1,643,920	△ 2,765,360
純資産の部合計	8,506,341	8,337,982	8,374,901
負債及び純資産の部合計	9,436,222	9,269,827	9,340,501

* 各表は科目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計が一致していない場合があります。

(4) 主な財務比率の推移(法人全体)

◆ 事業活動収支計算書関係比率

	比率	計算式	比率の意味	平成28年度	平成29年度	平成30年度
1	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	経常収入に対する人件費の占める割合を示しています。この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化に繋がる要因となります。	62.2%	66.0%	70.1%
2	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	経常収入に対する教育研究経費の占める割合を示しています。この比率は収支均衡を失わない範囲内で高くなることが望ましいとされています。	35.4%	35.6%	38.2%
3	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	経常収入に対する管理経費の占める割合を示しています。ある程度の支出は止むを得ないものの、比率は低い方が望ましいとされています。	7.6%	8.9%	9.0%
4	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	経常収入から経常支出を差し引いた経常収支差額の経常収入に対する割合で、経常的な収支バランスを表す比率です。	△5.7%	△10.9%	△17.7%
5	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	教育活動収入から教育活動支出を差し引いた教育活動収支差額の教育活動収入に対する割合で、本業である教育活動の収支バランスを示す比率です。	△10.0%	△15.0%	△20.9%

* 「経常収入」=教育活動収入計+教育活動外収入計

「経常支出」=教育活動支出計+教育活動外支出計

◆ 活動区分資金収支計算書関係比率

	比率	計算式	比率の意味	平成28年度	平成29年度	平成30年度
1	教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	教育活動資金収支差額の教育活動収入に占める割合を示し、本業である「教育活動」でキャッシュフローが生み出せているかを測る比率です。	5.6%	3.1%	△1.1%

* 教育活動資金収入計=学生生徒等納付金収入+手数料収入+特別寄付金収入+一般寄付金収入+経常費等補助金収入+付随事業収入+雑収入

教育活動資金支出計=人件費支出+教育研究経費支出+管理経費支出

教育活動資金収支差額=教育活動資金収入計-教育活動資金支出計+教育活動調整勘定等

◆ 貸借対照表関係比率

	比率	計算式	比率の意味	平成28年度	平成29年度	平成30年度
1	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	一年以内に支出しなければならない流動負債に対して、現金預金など現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、短期の支払能力を判断する重要な指標です。	349.2%	544.2%	293.9%
2	積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	施設設備の更新や教職員の退職金資金等、将来の確定的債務等について、どの程度保有資産の裏付けがあるかを表す比率です。この比率は高い方が望ましいとされています。	74.1%	71.2%	42.0%

* 運用資産=現金預金+特定資産+有価証券(固定・流動)

要積立額=減価償却累計額+退職給与引当金+2号基本金+3号基本金